平成 29 年度　事 業 報 告 書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

1.　事業実施の方針

民族や信仰、国の違いを超えてすべての人の命と人権を大切にする心を育むことを目指して、平成 29 年度もホロコースト史を教材とした教育活動を実施した。学校や自治体への訪問授業・講演会を計 75 回、国連制定のホロコースト国際デーの事業およびセミナーなど自主事業を計 5 回実施し、あわせて 13,866 人に学ぶ機会を提供した。

訪問授業では、ホロコーストの悲惨さだけでなく、「なぜ起きたのか」という過程から学ぶことを重視し、寛容な社会をつくるために一人ひとりができることを考えるきっかけとしてもらうことを目標とした。また、ホロコースト史を教材として扱うことは、日本の第二次世界大戦時のアジアでの加害から目を背けさせるものではなく、なぜ歴史から学ぶことが大切なのかを子どもたちが自ら考え導きだせるような学びの場を作り出すことを目指した。

①教材の制作及び提供事業（展示パネルの貸出）

展示パネルおよび視聴覚資料の貸出は、下記の 4 回実施した。昨年に引き続き、貸出業務を担当するスタッフの配置およびメンテナンスの効率的な方法を検討して体制を整えるまで、貸出依頼の受付は最小限にした。学校や自治体のニーズに合わせたパネル教材の貸出事業をどのように実施していくか、次年度に引き続き検討していきたい。

1. パネル「アンネ・フランクと希望のバラ」（小セット）　2017 年 7 月
   日進市平和の集い「アンネのバラを広め隊」(愛知)
2. パネル「ハンナのかばん」(小セット)　2017 年 8 月
   新宿区立戸山図書館
3. パネル「アンネ・フランクと希望のバラ」(小セット) 2017 年 6 月
   フェリス女学院大学ボランティアセンター
4. 映画「アンネの日記 第三章」アンネのバラの教会(兵庫) 2017 年 7 月 2 日

②書籍・資料などの収集及び提供事業

所蔵するホロコースト関連の本(和書 400 冊)と映像資料については、インターネット図書館「ブクログ」(http://booklog.jp/users/therc)を利用した情報収集・提供を重点的に行った。登録数は 1,358 冊。

③講演会、セミナー等の開催事業

1. 訪問授業・講演会

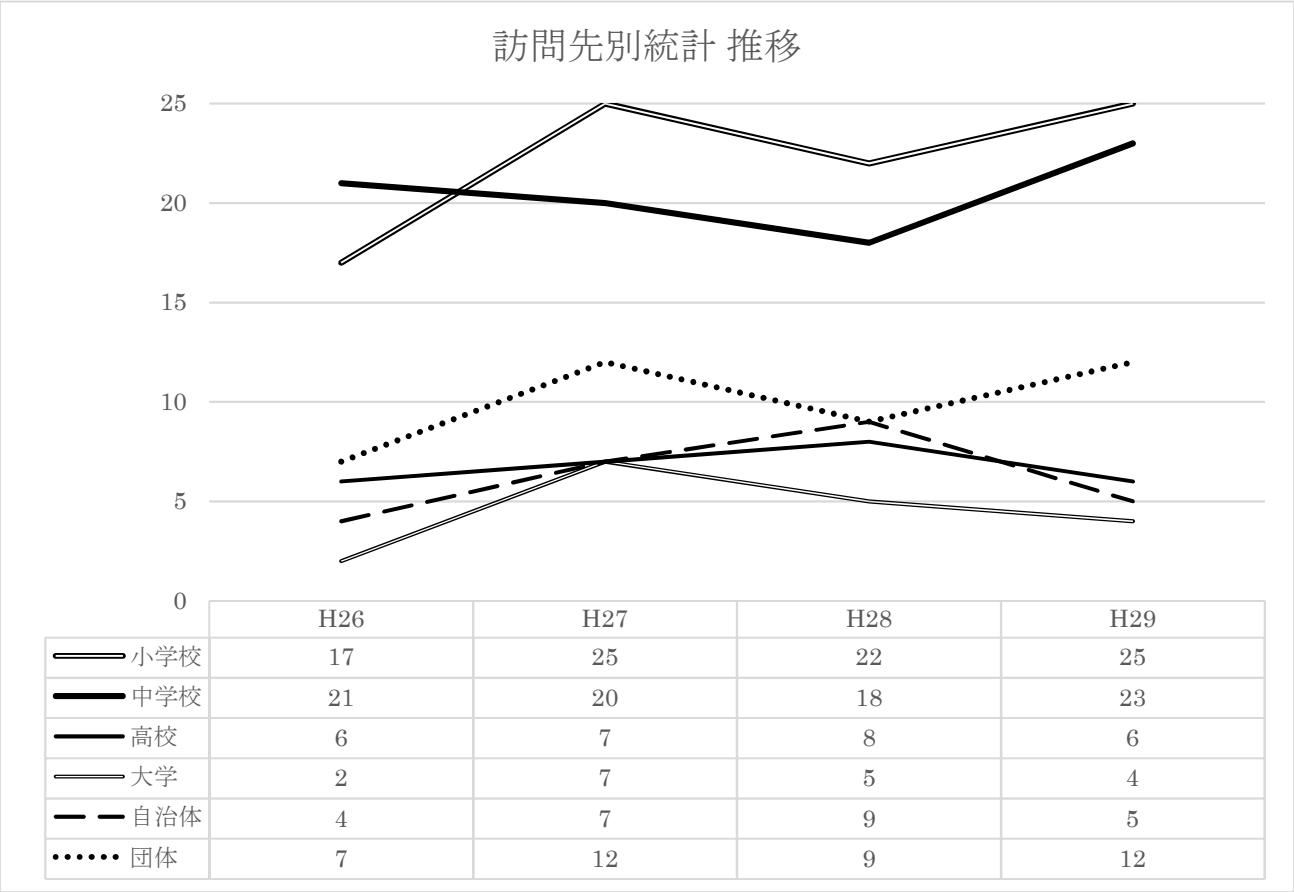
〇全国の小・中学校、高校、大学、自治体まで 75 ヶ所で、約 13,300 人を対象に実施した(昨年 71 ヶ所、11,000 人)。命の授業、道徳学習、PTA 主催講演会、人権研修会などで依頼を受けた。

テーマ	H29 年度	前年度
ハンナのかばん	55	51
杉原千畝	10	13
アンネ・フランク	2	3
その他	8	-

	H29 年度	前年度
新規	23	18
継続	52	53

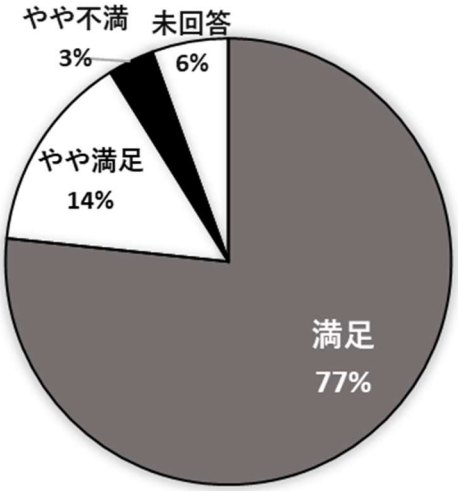
訪問先	H29 年度	前年度
小学校	25	22
中学校	23	18
高校	6	8
大学	4	5
自治体	5	9
団体	12	9

	H29 年度	前年度
小学校・公立	21	16
小学校・私立	4	6
中学校・公立	15	12
中学校・私立	8	6
高校・公立	1	3
高校・私立	4	5



2. 当 NPO の自主開催で下記の四つのイベントを実施した

2-1. 2017 年 6 月 10 日(土)　映画「アンネの日記 第三章～閉ざされた世界の扉」上映会

経緯	アンネ・フランクの映画はすでに数多く作られているが、2016 年に新しい視点からアンネの物語を伝えるドキュメンタリーがアメリカで制作された。2005 年に YIVO ユダヤ研究所(米国)で発見されたアンネの父オットーの書簡を手がかりに、アンネや無数の難民たちが世界の無関心によって追い詰められていった様子を浮き彫りにする作品。監督に直接問い合わせをしたところ、上映許可をいただき 2017 年 1 月の国際デーで上映した。『アンネの日記』が出版されてちょうど 70 周年にもあたるため、この節目に、より多くの会員や教員、学生に観てもらうために、総会開催の時期にあわせて再び上映会を企画した。
目的	アンネ・フランクは日本国内では「戦争犠牲者」のシンボルとして捉えられがちだが、本作品を通して、「ユダヤ人」であることを理由に迫害の対象となったこと、世界の無関心によってアンネや多くのユダヤ人は行き場を失ったことなど、ホロコースト史の側面を知る機会としたいと考え企画した。「なぜ人間は、おたがいに仲よく暮らせないのだろう」というアンネの問いが、現代の私たちに投げかけるメッセージを考え、一人ひとりの命が尊重される、寛容な社会をつくりだすため、歴史から学ぶ機会としたいと考え実施した。
内容	映画「アンネの日記 第三章～閉ざされた世界の扉」の上映 代表・石岡史子のアフタートーク 質疑応答
会場	立教大学 池袋キャンパス　14 号棟 D201
対象・参加者	Kokoro 会員、教員、学生、一般、計 148 名
共催	立教大学チャプレン室
成果と課題	アンケートより（来場者 148 名のうち回答 90 名） ・差別は、一部の人が勝手に行うだけでなく、「大多数」の人たちの無関心な態度が、差別を助長させるのだと痛感しました。（20 代） ・一つの国の施策ではなく、社会が人権をどう考え、どう守っていくか、改めて突き付けられた気がします。アンネの言葉で、「私が私でいることを許される社会に」といった意味に近いものがあったと思います。それを実現していきたいです。（30 代） 

2-2. 2017 年 8 月 5 日(土)　ドイツの”記憶の文化”を考える シリーズ第三弾

経緯	2013 年から「ドイツの”記憶の文化”を考える」というテーマの講演および鼎談を 2 回開催した。ドイツがナチ時代の歴史をいかに記憶してきたかを知り、そこから学べることは何かを考える会で、毎回好評で関心が非常に高い。
目的	ドイツがいかにナチ時代の歴史を記憶してきたかを学ぶ。
内容	2016 年にドイツで出版解禁となったヒトラーの『我が闘争』。2017 年は宗教改革 500 周年で注目を集めたルターの反ユダヤ主義。これら二つを事例にして、ドイツの負の記憶への向き合い方について探る。“記憶のカタチ”そのものが、差別という負の側面をもつ場合、または偏見や憎しみを助長する可能性がある場合、私たちは次の世代にいかにつないでいくことができるのかを考える。在独 28 年の歴史研究者である岡裕人さんをお迎えして、9 月に連邦議会選挙を迎えるドイツの今について話を聞きながら、教育の視点から考える。学習院大学の伊藤白さんにも前回に引き続きパネリストとして参加していただいた。
会場	学習院大学
対象・参加者	Kokoro 会員を中心に、教員、一般参加者、計 70 名
共催	ドイツの「記憶の文化」を考える会
ゲスト	岡裕人(歴史家、教育者、フランクフルト国際事務局長) 伊藤白(学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科准教授)
成果と課題	平日夜の開催にもかかわらず、前回は 2 時間の休憩なしで「時間が足りなかった」という感想が多かったため、今回は 2 時間 30 分とした。参加者の皆さんの様子から非常に関心が高いと感じる。今後もシリーズとして継続して参加していく。 (アンケートより) 「日本の加害者性をどう考え語り継いでいくかが日本において戦争や平和を考える上で重要だと、ドイツの取り組みをききながら改めて感じた。日本の歴史教育は知識偏重で内容も WW2 でいかに民衆が苦しい生活を強いられていたか、広島長崎の原爆、沖縄のひめゆりの話などが中心だったように、自分の経験上感じるし、TV 番組もそういったものが多いと感じます。」(20 代) 「SNS や情報が多様化する現代の日本で、若い人たちがこれからの社会と日本をどう考えていくか、私たちは何をしていけばいいのか、いろいろとお話の中で課題となりました。」(50 代) 「ドイツの教育における”批判”の学びは、日本とかなり異なるように思います。日本では(とくに私は)”これが正確”というものが示されることが前提となっているように思います。」(30 代) 「2 時間とは思えない程あっという間に時間が過ぎてしまいました。」(20 代) 「こちらの活動を始めて知ったので参加できて良かった」(40 代)

2-3. 2017 年 10 月 26 日(木) 上映会「否定と肯定」

経緯	米ユダヤ人教授デボラ・リップシュタットと彼女を名誉棄損で訴えたホロコースト否定論者の裁判を描いた映画「否定と肯定」が日本で劇場公開されることになり、映画配給会社から特別試写会の開催について提案を受けた。
目的	ホロコースト否定論は日本国内でも存在し、ネット上では特に日本版ネオナチのグループがホームページを開設し活動している。また、第二次世界大戦時の「南京虐殺」や「慰安婦」の否定論や歴史修正主義も存在し、教育現場からは「話題にしにくい」「中国を嫌いな子たちが多い」という声を聞く。アジアでの日本の加害の歴史との向き合い方が差別や偏見を助長する側面もあることに大きな危機感をもつ。映画および原作著者・主演モデルのデボラ・リップシュタット教授の活動から、私たち一人ひとりがとるべき行動について学び考える機会を提供したいと考え実施した。
内容	映画「否定と肯定」の試写およびデボラ・リップシュタット教授と木村草太氏の対談（映画配給会社による招聘）
会場	神楽座(東京都千代田区富士見 2-13-12 KADOKAWA 富士見ビル 1F)
ゲスト	デボラ・リップシュタット氏、米国エモリー大学 木村草太氏、首都大学
対象・参加者	抽選で参加者を招待。95 名参加。
後援	イスラエル大使館、ドイツ連邦共和国大使館
協力	株式会社ツイン、有限会社樂舎
成果と課題	ホロコースト史に限らず、日本における「南京虐殺」や「慰安婦」の否定論などの歴史修正主義とも関連して、参加者の関心がとても高かった。デボラ・リップシュタット教授は映画で描かれている裁判の全記録を公開し、歴史修正主義者への対応策を掲載したホームページを開設している。NPO ができることは何かを考えるときに、今後の参考にしたい。また、同教授との懇談を通して、Kokoro の活動にも評価をいただき、助成金申請のための推薦状を書いていただくことができた。 ▶参加者アンケートより 「大量の資料から何を読み取るのかを、学校教育でもっと取り入れて判断できる力を育てていかないといけないと感じました。」（40 代） 「史実を捻じ曲げたとんでもない主張でも、声高にまくし立てることで拍手と笑いをもって聴衆に受け入れられてしまうことに恐ろしさを感じた。裁判のためとはいえ、アウシュビッツの地で主人公と弁護士がホロコーストの有無についてやりとりしなければならなかったシーンは、あまりに悲しかった。」（40 代） 「こんな情勢だからこそ、レイシストが街にあふれている今の日本だからこそ、正義と真実が求められている。」（60 代） 「メディアリテラシーの一貫として、本当に一人でも多くの人に観てほしい。」

2-4. 2017 年 11 月 18 日(土)「ヤーノシュ・ツェグレディさんを囲む会」

経緯	東京在住のホロコースト生還者ヤーノシュ・ツェグレディさんと 2016 年から Kokoro では交流がはじまり、自らの体験を話してくれるようになった。
目的	日本に長く暮らしているツェグレディさんの体験は、子どもたちにとってホロコースト史を身近に感じながら学ぶきっかけにすることができる。ツェグレディさんは「証言を記録することには興味はないが、子どもたちとはぜひ交流したい」と考えていらっしゃるため、中学生、高校生との交流会を開き、その場で語ってくださる姿を記録に残したいと考えた。
内容	ヤーノシュ・ツェグレディさんのお話 中学生、高校生との質疑応答
会場	東京女学館中学校高等学校(東京都渋谷区)
対象・参加者	東京女学館、湘南学園、鎌倉学園の有志生徒、教員の皆さん、Kokoro 会員、計 50 名
ゲスト	ヤーノシュ・ツェグレディ
成果と課題	「1 対 1 で証言インタビューを行う必要はない」というツェグレディさんの希望を尊重して交流会の形式をとったため、ビデオ撮影は難しかった。また、幼少時の記憶をたどりながら話してもらうことも難しく、ホロコースト史全体の話に終始してしまった。質疑応答の時間も足りなかった。成果としては、中学生、高校生たちの熱心な姿勢にツェグレディさんが非常に心を動かされたとのことで、信頼関係を築くことができたと感じる。また、この会をきっかけにして、ニュージーランド在住の兄スティーブン・セドレーさんとの交流も始めることができ、より詳しい証言を知ることができた。
課題	・日本にゆかりのあるホロコースト生還者の体験記をどのような形で教材化できるか引き続き検討していきたい。 ・将来的にニュージーランド在住のスティーブン・セドレーさんもお招きして、ヤーノシュさんと兄弟でお話を聞く機会を設けたい。

2-5. 2018 年 1 月 25 日(木)国連制定「ホロコースト国際デー2018 in 東京」

経緯	2005 年に国連は、ホロコーストの歴史はすべての人びとに、差別や偏見、憎しみの危険性を警告しているとして、アウシュヴィッツ収容所が解放された 1 月 27 日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と定めた。また、国連は加盟国に対して、ホロコースト史を教育の場でとりあげることを呼びかけている。その具体的な実施のために、国連の広報局は、「ホロコーストと国連アウトリーチ・プログラム」を創設。ニューヨークの国連本部や世界各地で、1 月 27 日の記念式典をはじめ、様々な記念行事・展示会が開催されている。Kokoro でも、2015 年から毎年 1 月に国際デーを開催している。
目的	ホロコーストの国際デー第四回目として開催。ホロコーストの歴史は、すべて人々が人間の差別や偏見について考え、自分事ととして乗り越えていくために、普遍的な教訓がある。その理解を日本国内でさらに広めたい。
内容	1. 開会挨拶 イスラエル大使ヤッファ・ベンアリ様 国連大学学長デイビッド・マローン様 ドイツ連邦共和国大使館文化課長ダーヴィッド・メラー様 2. 朗読「ヤーノシュとスティーブン兄弟の物語」 ヤーノシュさんと中学・高校生の対談と質疑応答 ◇パネル展同時開催「Kokoro が出会ったホロコースト生還者」
会場	国連大学
ゲスト	ヤーノシュ・ツェグレディ氏 1973 年ハンガリーでユダヤ人の家庭に生まれる。ゲットーで祖父母と叔母と兄とともに身を隠し、7 歳で生きのびる。10 歳でニュージーランドに移住。奨学金を得てドイツに留学し、ピアニストの道を進む。1967 年に来日デビュー。
参加者	Kokoro 会員を中心に、教員、一般参加者。朗読やパネリストとして東京女学館、湘南学園、鎌倉学園有志の生徒が参加、計 100 名
後援	イスラエル大使館、ドイツ連邦共和国大使館、ポーランド大使館、国連大学、国連広報センター、外務省、国連とホロコーストアウトリーチプログラム
成果と課題	・運営面で助けてくださるボランティアさんたちが気持ちよく参加していただけるような余裕のある役割分担や体制を整えたい。 ・学校の先生方のご協力により、ヤーノシュさんと中学・高校生たちの事前ミーティングを通して、ヤーノシュさんと兄スティーブンさんからより詳しく当時の証言を提供していただくことができたこと、それをもとに朗読をプログラムに組み込めたことは良かった。 ・国連制定の国際デーにあわせて、「ホロコースト教育」への関心を高めることが最大の目的であるため、セレモニー的な性格が強くなりがちだが、学生の自発的な参加を促すような仕組みも作っていきたい。

④人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro 通信」(ニュースレター)

Kokoro 通信(A4、6 ページ)を 7 月に 500 部発行し、会員を中心に、訪問授業/展示パネルを活用していただいた教員･保護者・自治体を中心に配布した。

4-2. 「Kokoro メルマガ」の発行

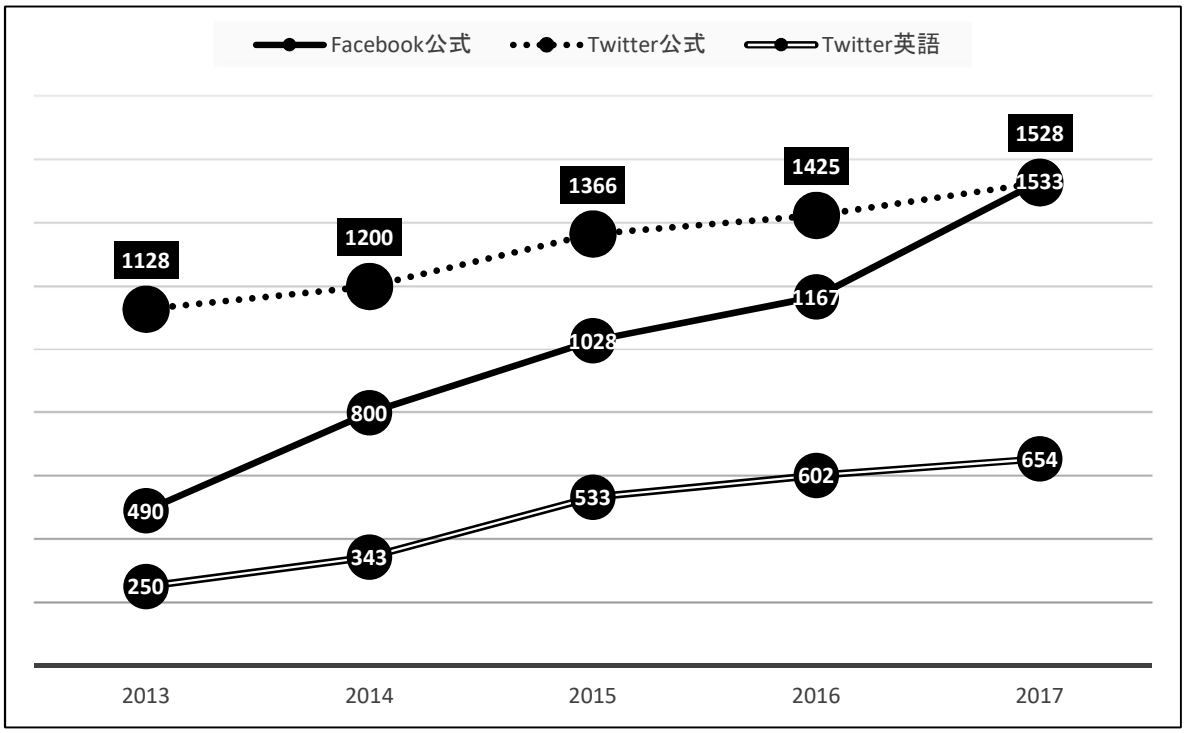
Kokoro メルマガは、4 回発行した。イベント情報ほか様々な話題を各号約 500 名にメールで提供した。いずれも、ホロコースト史を教材とした人権教育の意義や成果を分かりやすく伝え、理解してもらうための手段として発行した。

72 号　2017 年 5 月　『アンネの日記』出版 70 周年
73 号　2017 年 7 月　ドイツの”記憶の文化”を考える 第三弾
74 号　2017 年 9 月　緊急告知 10/26(木)上映会『否定と肯定』と対談ご案内
75 号　2018 年 2 月　「なぜ?」と問い続ける

4-3. その他の SNS(ソーシャルネットワークサービス)を利用した情報発信

ブログやフェイスブック、ツイッターなどの SNS による定期的な情報発信を継続して行った。海外のニュースや、新刊図書の案内、Today in History(今日は何の日)、など歴史を身近に感じてもらえるような情報発信を心がけた。イベント情報は特に学生が見てくれることが多かった。

主な SNS のフォロー数



4-4. メディア寄稿、取材

1) 2017 年 6 月 15 日	クリスチャントゥデイ
私たちの無関心は今日の「アンネ」を苦しめていないか / 『アンネの日記』出版 70 周年ドキュメンタリー映画、立教大で上映会開催	
2) 2017 年 6 月 28 日	日経新聞
文化 / 命伝えるハンナのかばん / ホロコーストの少女の遺品 / 同年代の生徒に出前授業	
3) 2017 年 9 月 17 日	カトリック新聞
「ルターの”光”と”陰”に向き合うドイツ / 宗教改革 500 年 / ホロコースト教育資料センタートークイベント開催」	
4) 2017 年 11 月 18 日	映画.com
「専門家が熱弁する「ユダヤ人を救った動物園」夫妻の偉業とは？」	
5) 2017 年 11 月 25 日	朝日新聞
「ユダヤ人少女の遺品を前に学ぶ / 文京で出前授業」	
6) 2017 年 12 月 6 日	映画.com
「「ユダヤ人を救った動物園」の舞台、ポーランドの“真実”とは？専門家が解説」	
7) 2018 年 1 月 31 日	TBS ラジオ荻上チキ session-22
「ホロコーストを日本人が語り伝える意味とは？～アウシュヴィッツ日本人ガイド・中谷剛さん登場 / 中谷剛×石岡史子×荻上チキ」	
8) 2018 年 2 月	前衛
なぜホロコーストを記憶するのか	
9) 2018 年 3 月	浜島書店
高校生『最新図説 政経』 命の大切さを伝えるハンナのかばん	

4-5. gooddo(グッドゥ)を活用した情報発信

月二回、Facebook に Kokoro の紹介を載せると、見てくれた人の数に応じて、広告料が入るという NPO 向けのサービス(無料)。活動報告だけでなく、ホロコースト教育の意義や歴史を身近に感じることができるような画像を作成して合計 13 回発信、14,679 名に届けた。1 月 28 日をもって、応援ポイントの支援機能は終了した。gooddo 経由で楽天で買い物をすると、購入額に応じた支援金が「ホロコースト教育資料センター」に届くという支援は継続中。

2.　事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
①教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネルやビデオの制作・貸出	4 回	全国の学校、自治体、市民団体など	1 名	小中高校生、保護者及び教育施設関係者など 約 800 名	1,218,786
②書籍・資料などの収集及び提供事業	ホロコーストに関する書籍・資料を貸出	6 回	事務所	1 名	6 名～不特定多数	570,133
	ブクログ(登録 1270 冊)	随時				
③講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	75 回	小中高校、大学、公民館、先生や保護者	2 名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般 13,000 人	2,751,715
	「アンネの日記 第三章」上映会	6/10	立教大学		148 人	
	ドイツの”記憶の文化”を考えるシリーズ第三弾	8/5	学習院大学		70 人	
	「否定と肯定」上映会トーク	10/26	神楽座		95 人	
	ヤーノシュ・ツェグレディさんを囲む会	11/18	東京女学館		50 人	
	ホロコースト国際デー2018 in 東京	1/25	国連大学		100 人	
④人権・平和教育に関する普及啓発事業	ニュースレター作成・配布	1 回 (7 月)	事務所	2 名	会員、教員、大学生、保護者など 500 名	1,064,300
	メールマガジン	4 回		2 名	2500 名	
	ホームページ、ブログ	随時		2 名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	9 回		1 名	不特定多数	
	SNS ツールの活用	毎日		2 名	4000 人～不特定多数	
	Gooddo	13 回		1 名	14,679 人～不特定多数	